

演題番号：C6

## オクラシチニブが著効した過角化型多形紅斑の犬の1例

○安川邦美

やすかわ動物クリニック

1. はじめに：多形紅斑(EM)は犬の皮膚疾患の中で非常に稀な疾患である。中でも過角化型多形紅斑(HKEM)は更に稀であり、従来の免疫抑制療法による寛解率は非常に低いことが報告されている。オクラシチニブはヤヌスキナーゼ阻害薬であり、近年は犬の難治性免疫介在性皮膚疾患などにも有効性が確認されている。今回、HKEMと診断した犬に対してオクラシチニブを投与したところ顕著な改善を認めたので、その概要を報告する。

2. 材料および方法：症例はミニチュア・ピンシャー、雄、7ヶ月齢。頸部、左腋窩及び尾根部の鱗屑、紅斑を伴う隆起した皮膚病変と掻痒を主訴に当院を来院した。当初は膿皮症と診断し抗生剤を投与したが皮膚病変が拡大し、第47病日皮膚生検を実施した。皮膚病理検査の所見と臨床症状から表在性膿皮症を伴ったHKEMが疑われ、プレドニゾロン(PSL)、シクロスポリン(CyA)による免疫抑制療法を開始した。治療初期は皮膚病変及び掻痒の改善を認めたが、漸減すると皮膚病変及び掻痒の再燃を繰り返し、第823病日皮膚病変、掻痒が更に悪化した為、第841病日皮膚生検を再度実施した。皮膚病理検査の所見と臨床症状からHKEM及び皮膚石灰沈着症

の併発が疑われ、第848病日CyAは休薬、PSLは漸減し、オクラシチニブ(0.63 mg/kg BID)を投与した。

3. 結果：オクラシチニブ投与後、皮膚病変及び掻痒は顕著に改善した。第876病日再燃はなくオクラシチニブ(0.63 mg/kg SID)を減量し、第876病日にはオクラシチニブ(0.63 mg/kg EOD)を更に減量し、第1405病日現在も良好に経過している。

4. 考察および結語：本例は犬のHKEMに対してオクラシチニブを使用した国内で初めての報告である。ある報告では犬のHKEMに対するグルココルチコイドとCyAに対する反応が悪く、18頭中3頭(18%)しか寛解を認められなかったと報告されているが、Highらは犬のHKEMに対してオクラシチニブ(0.6-0.9 mg/kg BID)で急速な改善を認め、臨床症状の改善まで7-12週だったと報告している。本例もオクラシチニブ(0.63 mg/kg BID)の投与により臨床症状の急速な改善が認められ、寛解までは8週間であった。犬のHKEMに対してオクラシチニブは迅速で効果的な治療薬であることが本例でも証明された。